

令和元年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	北陸雪氷シンポジウム2019	事業経緯	継 続	実施体制	実行委員会	担当所属	企画調査室
事業名 (大項目)	地域の利用・整備・保全に関する広報事業	分類名 (中項目)	広報・啓発活動支援事業		事業区分	講座、セミナー、育成	

1. 事業目的

本事業は、北陸で進めている雪対策に関するトップランナーの取り組みを内外に広く発信するとともに、課題やニーズを明確化し、解決に向けての最新の装備・技術・知見について情報交換を図ることを目的とする。

2. 事業実施体制

主 催：北陸雪氷シンポジウム2019実行委員会
 国土交通省北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、福井県、新潟市、東日本高速(株)新潟支社、中日本高速(株)金沢支社、北陸雪対策連絡協議会、長岡技術科学大学、(国研)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター、(公社)雪センター、(一社)日本建設機械施工協会北陸支部、(一社)北陸地域づくり協会、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部

3. 事業実施概要

日 時：令和元年11月12日(火) 13:00～17:15
 場 所：ホテルニューオータニ長岡
 プログラム：
 特別講演「ウィンタースポーツとリゾートについて」
 講師：皆川 賢太郎((公財)全日本スキー連盟常務理事・競技本部長)
 基調講演「持続可能な地域とこれからの道路除雪」
 講師：石田 東生((一財)日本みち研究所理事長)
 雪氷技術研究発表
 応募24編のうち、口頭発表10編
 パネルディスカッション「道路雪対策を持続的に発展させていくためには？」
 コーディネーター：佐野 可寸志(長岡技術科学大学大学院教授)
 パネリスト：小売・流通、除雪、機械開発等の分野より6名
 参加者：320名

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

道路の雪対策は地域の暮らしと経済を守る重要なものだが、近年雪の降り方が変化し、厳しい気象条件への対応が求められている。一方、除雪機械オペレーターの高齢化や減少等、その作業環境は厳しい状況となっている。これまでも北陸地域が雪に強い道路整備を進めてきた経験を生かし、今後も全国の道路雪対策を牽引していく取り組みの一環として本事業を開催。総括として「産学官によるコンソーシアムの設立」「除雪体制維持のための継続的な検討」「集中的な大雪時における道路利用者の利用抑制を促す取り組み」「シンポジウムの継続的な開催」の4点を参加者で共有し、広く発信した。



↑ 特別講演
基調講演→



パネルディスカッション



雪氷技術研究発表